幡嘉之氏から送って頂いた"釜城生物，No.5，1991"によると数年前から末広橋での（従来筆者の調べたのもこの橋の両側であった）本種が稀少になって来ているとの記事が出ていた(p.12)。その後同氏の私信でも1986年頃から一晩に3～4頭にしか出合はなくなったとのことであった。

1991年5月9日蜂谷幸雄氏に無理を云って末広橋へつれていって頂いた。

なる程橋の両側は河原がきれいに改修されていて芝を植えたようになっており土手も同じ様に改修され面目が一新されていた。さらに西側へも改修が及ぶのか土木機械がおいてあった。かって河原には樹木などもあったのが跡形もなく無くなっていた（この樹にはハンノヒメコガネが多く来ていた）。この河原に生息していたと考へられるヒゲコガネはこの改修で恐らく滅的損害を受けたのであらうと考へられる。見た目にはきれいな川原になった様であるがこの河原を何に使用する考へでいるのか（東隣の福有橋の川原のように車の駐車場にするのであらうか）。とに角自然の川原ではなく人工の河原にさま変りしている。そこで生活していた虫達はその改修工場で絶滅を余儀なくされてしまった様に思はれる。まだ他の地点に生息している所が残っているだらうと思はれるが身近で多く生活している所はどうやらなくなってしまったようである。市街地を流れている様な川では自然を求めることは出来ないのであらうか。

追記．脱稿後三木市の小倉　滋氏からの御教示によると美嚢川ぞいの他のヒゲコガネの産地でも川原の改修なんか全くされていないような所でもここ数年採集出来る数が極端に減少しているとのこと。何か川原の改修といった環境破壊以外にも減少する原因があるのかもと考へられたりする。

ヒラタアオコガネ広野ゴルフ場（三木市）に大発生

（兵庫県甲虫相資料・260）

高橋寿郎

1991年4月22日の夜兵庫野鳥の会事務局長坂根　干氏より電話を頂いた。"本日広野ゴルフ場で物凄い数のコガネムシが群飛していた。捕虫網を持って行ったら何百匹と簡単にとれそうだったと。マメコガネよりやや小さいコガネムシと思はれるが何んと云うコガネムシだらうか"とのことであった。実物を見なくてはと何んとも云えないが出現期からして早春に見られるウスチヤコガネだらうと考へ

られるがと返事したが何頭か生きたまま持って帰っているので明日郵便で送るとのことであった。

送られて来たのを拝見すると意外にもヒラタアオコガネ *Anomala octiescostata* Burmeister, 1844 であった（送られて来たのは5♂4♀で内1♂はまだ元気に動いていた）。早速そのむね連絡しておいたがこのコガネムシはどうも日本特産種の様で一番新しい石田正明・藤岡昌介氏著の“日本産コガネムシ主科目録”(1989) によると本州（中部以南），四国，九州，平戸島，壱岐，甑島，種子島，沖縄島に分布が知られているが日本以外の海外では分布していないようである（別稿でこの種の分布に就いて眺めて見たいと考へている）。

小さなコガネムシであるが見ようによっては緑色の仲々美しく可憐である。上翅上に縦の4隆起線を有することが種名につけられていてその生活史等はどうも見当らなかった。“広葉樹の葉上に見られる。幼虫は土中で根を食べて育つ（林，1975）” “成虫は春に出現，昼間活動し，主に植物の葉を食べる。雄は時に地表近くを群飛することがある。幼虫は土の中で植物の根を食べて成長する。春に発生することや雄が地表近くを群飛して雌の出現を待つことなどウスチヤコガネの習性によく似ている（黒沢，渡辺，1984）” 等の解説がある。

出現期の関係もあったり小さかったりすることから野外では余り採集出来なかった種のように思はれるがゴルフ場が出来だしてからあちらこちらのゴルフ場では採集出来るようで六甲山上の六甲山ゴルフ場でも5月10日前後群飛するのに何回か出会った（きべりはむし，Vol. 14, No. 2，1986）。兵庫県下では他にも西宮市武田尾読売ゴルフ場，宝塚市長尾山，宝塚高原ゴルフ場で採集されている（きべりはむし，Vol. 15, No. 2，1987）。いわゆるゴルフ場の芝草の加害コガネムシの様でありゴルフ場があれば多い少いはあるが見ることが出来るコガネムシのようである。

ところで一般の方がゴルフ場で驚く程の数のコガネムシが飛び交ふのに出会われると当然不快の念を起される。そこでゴルフ場側は薬剤の散布を行はれることになる。

この場合飛んでいるのはほとんど雄でありこの時期に薬剤散布と云うことは防除の効果から云えば余り効果が無いと考へられる。成虫の発生の初期から残効性の強い農薬を散布するとか、殺虫剤の散布回数を増加する方法をとってこの虫の雌を対象としての防除を行うと同時にこの虫の幼虫防除を行はなければいけないとか。若令幼虫を対象に5月中旬～6月中旬頃乳剤による散布をやると云うことを実施しなくてはいけないと云ったことになる。そうなると虫を抑圧することは同時に人間に対する影響が色々と出てくることにもなる。

ゴルフ場建設でその地の自然は破壊され今迄生息していたもの達は絶滅に追いやられる。ところが芝生が出来るとこの芝生にはまた違った虫達が発生するそうなると人間は薬剤でもって対抗する、こんどは薬剤による環境悪化人間への影響が出てくる。虫だけを殺して人間に何の影響もないと云った虫のイイ薬剤なんてないことを承知しなくてはいけないと思はれる。

わざわざ大発生を御知らせ下さった坂根氏に厚く御礼申しあげる。

（追記）1991年５月９日加古川市上荘町白沢の田圃のそばで雑草にとまっている本種２頭を発見その内の１♂を採集した。このあたりの本種の記録は始めてである。すぐそばではないがゴルフ場が近い地点でもある。

ヒラタアオコガネの生活史、卵、幼虫の形態については後閑暢夫博士の貴重な報文がある（それによると本種は本州では稀な種とも書いておられる―日本応用動物昆虫学会誌第24巻、第２号、PP. 112―114, 1980）。

県関係文献紹介

○宝塚市立少年自然の家編集・発行（1991・Ⅲ）

自然観察資料　ギフチョウの一生。17P.

ギフチョウの産卵からふ化そして羽化するまでカラー写真35枚と発育過程の説明文もついている。写真は自然の家職員今北　清氏が３年前から写していたものであるとか、残念ながら現在のカラーとしては今一つの物足らない印刷になっている。

○宝塚の自然　第５号（1991・Ⅲ）

兵庫県自然保護協会宝塚支部・宝塚自然に親しむ会会報

仲々清楚な会誌である。ただ虫の記事が多いので虫ヤにはうれしいが一般の会員にはどんなものであらうか。投稿者と云うのか原稿をバランスよく集めるのは大変であらう。貴重な記録も発表されたりしているので文献として一般にも知って頂きたい会報と云える。

○佐用ライオンズクラブ　千種川の生態 第18集. 18P.（1991・Ⅳ）

平成２年度の千種川の水生生物調査のまとめである。息の長い調査色々と教えられる所がある。今後も継続調査されるようである。頑張ってほしい。

○釜城生物　No. 2, 3（1990・Ⅶ）. No. 4, 5（1991・Ⅱ）兵庫県立三木高等学校生物部刊.

永幡嘉之氏が三木高等学校在学中に１人で出版を続けてこられたもので永幡氏が大学へ進学（鳥取大学）されたのでこの会誌もNo. 5で休刊となるのは淋しい。今回の会誌の中には三木市内の河川の水生生物による水質調査結果のような仲々有益なリポートが発表になっていたりする。

○北部の自然。西宮の自然ガイド④

―西宮の北部で見られる生き物たち―（西宮市立総合教育センター編集出版. 1991・Ⅲ）